

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800211		
法人名	社会福祉法人 新光会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	福岡県飯塚市綱分870-26		
自己評価作成日	平成23年1月30日	評価結果確定日	平成23年3月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム ふるさとは、「みんな家族です」を理念にあげ利用者にやさしさ・思いやり・いたわりを合言葉に日々支援しています。利用者は、軽度から重度の方ですが利用者個々にあったペースでゆとりと和やかに過ごしています。日々の体操やリクレーション・行事などが多くボランティアやスタッフが盛り立てます。年末の餅つきなどは、地域の方やご家族様の参加で行いました。又園庭には、小さいながら畑を作っていて地域の方がたに教えていただき、利用者と共に野菜作りをしています。また、ご近所の方からの野菜の頂き物も多く喜んでます。全員で外食も行い、近所にあるお好み焼き屋さんに出かけます。利用者・スタッフ・ご家族・地域の方・行政、5つの輪がグループホームふるさとを支えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年4月に法人の変更があり、新しいスタートを切っている。理念は継承され、管理者、職員の人事異動もなかったため、利用者や家族の不安も最小限に抑えられ、現在安定した運営がなされている。散歩を日常とし、近所の方との挨拶を交わす機会を大切にしている。また、地域の方から野菜の作り方を教えて頂いたり、採れたて野菜を貰ったりと、地域との交流も日常化している。管理者及び職員は、利用者の意向や希望を取り入れた外出や外食を定期的に支援しており、利用者の「楽しみ」を計画・実行・共感している。皆の「笑顔」は、毎月発行している「ふるさと新聞」に写真として掲載され、家族にも伝えられている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「私たちは家族です」という方針を掲示し、すべての職員に周知し「家族」を合言葉に暖かい家庭・家族づくりを目指し日々の業務に取り組んでいる。	「私たちの思い」が込められた理念があり、その中に、「私たちはみんな家族です」という基本方針がある。職員は常に「家族」を意識し、時には娘になったり、孫になったりと、家族になった気持で対応している。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し自治会主催のいきいきサロンに参加し地域の方、老人会・婦人会との交流がある。又、ご近所の方々から野菜を頂いたり、散歩中お会いすると挨拶をします。	いきいきサロンには、3名の利用者が定期的に参加されている。ホーム主催の行事(花見・餅つき)には地域の方や婦人会、ボランティアの参加もあり盛大に行われている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンで少しお時間を頂きふるさとのPRをします。行事参加の案内やホームへ気軽に遊びに来てくださるようお願いいたします。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や行事参加の要請又、地域との関係をより密着する場として意見や情報などサービスの質の向上に活かしている。	2ヵ月の1回定期的に開催されている。参加者は自治会長や民生委員、市職員、家族代表、利用者代表で構成されている。近況報告や情報交換を行い、お互い協力出来る事はないか話し合っている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回の介護相談員の受け入れを行ったり、本年度は、利用者の安全を考えてスプリンクラーの申請をし市町村より承認を得る。	ホームから徒歩5分程で窓口まで行くことができる。相談等はその都度訪問し対応してもらっており、協力関係は良好である。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門や玄関の施錠はしていない。身体拘束をしないケアを実践しているが、やむを得ない状況の時は、家族に相談し、了解を得ている。	年1回身体拘束に関する研修を実施している。現在、家族の同意を得て、やむを得ず身体拘束を行っている事例がある。 更なるアセスメントも含め、拘束の解除に向けた視点とともに、関係書類、記録の整備が必要です。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や行政・社協よりの通達文章の閲覧・日々の申し送りや、職員会議・個人面談等で職員に確認している。	

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の関係する利用者は、いないが今後の事を考慮し行政より資料など取り寄せて準備している。	前年度の期待したい項目であり、今年度はパンフレットを常設し、いつでも説明できるようにしている。今後、研修を取り入れていく予定である。	法人として支援できる体制にあるが、職員の理解を深め、また家族等への情報発信も行えるよう、継続して研修の機会を確保されることを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、入居契約書や重要事項説明書は丁寧に判り易く説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・不満・苦情は毎日の申し送りや職員会議等で取り上げ職員全員に周知させ利用者に対応している。家族には、意見・不満・苦情の言いあえる関係を築いている。外部者では、市町村による介護相談員の受け入れをしている。	日頃から何でも言いやすい環境作りを心がけている。家族には、面会時に必ず声をかけ、意見や要望などの把握に努め、知り得た情報は申し送りや会議等で話し合いをし、運営に反映させている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議・個人面談等で意見や提案を聞き反映させている。	月1回の職員会議や、3ヵ月毎に個人面談が実施されるなど、意見や提案を聞く機会がある。スプリンクラーの設置については、職員の意見や要望が強かったため、今年度、自主的に設置の申請をした経緯がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者は、面接から立会い福祉職員としてふさわしい人材を重視している。年齢・性別・は、問わず能力に応じた適材適所の人事配置に取り組んでいる。	採用にあたっては「人が好き・介護が好き・福祉が好き」「やる気がある」を重視しており、現在30代から50代の方が働いている。職員の中には元保育士がおり、リビングなどの飾り付けを得意とし、主婦も多く料理上手を発揮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の申し送りや職員会議・個人面談・園内研修などで取り組んでいる。	年1回研修を実施している。人権週間時は広報を回覧し職員全員が共有するようにしている。管理者は、いきいきサロンや地区の組長会議で「認知症について」の講義を行い、地域への啓発にも取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書を基に職員会議後に園内研修を行っている。又日々の介護業務の中でトレーニングしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より、近くのグループホームと交流を行っている。今は職員が、お互いのホームに行き情報交換が主ですが、先では、気軽に利用者同士が交流できる場の取り組みをしていきたいと思います。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入所などを行いながら環境に適應できるように、本人と何回も面談して困っている事や不安なこと、要望を聞き十分なアセスメントを行いながら支援している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切な家族をお預かりする為に、本人と同様に何回も面談を行いながら関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の信頼関係を築く為に何回も面談したり、体験入所していただいたり、電話にてお話ししたりしながら必要としている支援を見極めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の得意な利用者からは、味付けを習ったり、味見をして頂いたり、畑を作っていた利用者さんからは、畑仕事のアドバイスをもらったり、洗濯物を干したり、たたんだり、いろんな場面で暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族で、ゆっくりお話が出来るよう配慮したり、職員は、利用者の近況を詳しくお知らせしたり、利用者が家族の事を忘れない為、常に家族の事を話題にする。職員と家族は共に、利用者を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠くの知人・友人・親類の方へ荷物を贈ったり、届いたりするのでお礼の電話をかけた後、馴染みの関係が途切れないように、支援している。	長年続けてきたお中元やお歳暮のやり取りを、入居後も継続できるように支援している。また別の施設に入所している家族に会いに行ったり、ホームに面会に来て頂く等、関係が途切れないようにしている。	

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	個々の性格や人間関係を考慮して、それぞれの場 面において、職員が中に入り支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等に入院している方は、お見舞いに行ったり、 死亡退所の家族にふるさと新聞を送付したり、その家 族がホームを時々訪ねてこられ近況を話したりして います。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討して いる	日々の介護・日々の気づきの中で利用者の方がど のようなことを望まれているか、いろんな変化を すばやくキャッチするように意向の把握に努めて いる。	1対1になる場面作りをしたり、落ち着いて話がで きる環境を整えたりして、利用者の思いや意向の 把握に努めている。また、普段の生活で何気ない 言動をキャッチし、得た情報は日誌や申し送りノ ードに記載し、職員間で共有している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	面談時に詳しく聞いている。家族のお話を総合的 に重点におき生活歴等を把握している。利用者 にも日々の接遇する会話の中で昔の事や家族の 事を話題にしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で心身状態の変化に目を配り一 人ひとりに添った介護・持てる力をだせるように努 めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	介護職員とのミーティング・本人の希望・家族の 意向を取り入れて介護計画を作成している。	細かなニーズが挙げられており、個性のある ケアプランが作成されている。毎月モニタリ ング実施と会議を開催し、利用者全員のケ ースを話し合っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌があり、一日の様子や利用者の 言葉や態度・気づきなど記録している。申し送り ノートも活用している。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人には、障害者支援施設・デイサービスセンターがあり大きな行事の際は、応援に来て頂きデイサービスが休みの日曜日を利用して施設を借りてカラオケやマッサージをしたり全員の外出には、大型車を借りたりして支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんには、運営推進委員として関わりがあり消防署には、救命講習を依頼したり地域資源と協働している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの内科主治医が2週間に1回往診に来られる。利用者の小さな変化を見逃さず、随時連絡を入れて報告しアドバイスや指示を頂いている。	本人や家族の意向を尊重し、提携医による往診や、元々のかかりつけ医への受診、内科以外の他科受診の支援をしている。受診時は看護師が付き添い、説明内容や結果など家族に報告している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の職員を2名配置しているので利用者の体調の変化や病気の早期発見に結びついている。又主治医と頻りに電話連絡を取りながら健康管理や医療活用の支援をしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な利用者には、主治医より紹介して頂いている。入院した際は、随時面会に行き医師や看護婦に状況報告をもらっている。利用者には、早く退院出来るように声かけをしたり、入院しても家族まかせにせず、常に関わりをもっている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の協力体制のもと、重度化や終末期の医療連携は、できている。主治医・家族・管理者を交え終末期にあたり話し合いを行っている。	入所時及び状態の変化があった時など、家族と話し合いを行っている。現在2名の看護師が勤務しており、重度化や終末期に対応できる状態であるが、夜間体制の不安もあり、今後事業所としては関連施設への住み替えや、病院紹介の提案を行っていく方針である。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議や毎日の処遇の中で実践したり、マニュアルを熟読し、敏速な対応が出来るように取り組んでいる。消防署より来て頂き普通救命講習を職員全員受講した。地域の方にも声かけいっしょに受講した。又電話の側に救急車の呼び方を張っている。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や、自衛消防組織表を設置し担当を決めている。自治会とも協力体制が出来ていて、避難場所の確保もできている。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練が行われており、消火訓練や通報訓練も実施されている。災害時は自治会長及び近隣住民の協力が得られる体制が構築されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守り言葉づかいには、常に気をつけている。又個人情報、事務所で保管し、プライバシー保護に努めている。又申し送りや職員会議では、名前をイニシャルで言っている。	申し送りや会議は、居間で行なわれるため、名前をイニシャルで言っている。毎月発行している「ふるさと新聞」では、本人や家族の同意を得た上で、行事の一場面等、顔写真が掲載されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日頃のケアより本人の意志を尊重し時間をかけて利用者向き合い声かけしながら支援している。選択する場面がある場合は、利用者の意思にて選択して頂いている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝10時のティタイム後体操・歌・ゲームなどのレクを行っているが、利用者全員に声かけし参加・不参加は、利用者の意向を尊重している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師が訪問し散髪を行っている。毛染めを希望される利用者には、職員が染めている。時には、マネキュアを塗ったり化粧されたりおしゃれを楽しまれている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを配って頂いたり、茶碗ふき・おぼんふきのお手伝いなど行っている。又BGMにオルゴールで奏でたCDや童話などをかけ食事を楽しむことのできる雰囲気作りをしています。	毎日出来ることを手伝ってもらっている。利用者の意向を聞き出し、月1回は外食しており、お好み焼き屋、回転寿司、ファミレス、ファーストフードなど行きたい所に行けるよう、お店側との協力を得ながら支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量が把握できるように毎日記録している。利用者一人ひとりの状態をよく観察し食べやすさなど考慮しミキサー食から刻みまで嚥下や咀嚼の状態に合わせ提供している。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけや義歯洗浄・うがい・口腔ケアを行っている。半年に1回連携歯科医師による口腔内のバイタルチェックや口腔体操指導・歯科講習を実施している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付け排泄周期の把握や毎日の申し送りや職員会議で常に利用者全員のADL状態の確認や見直しを行い、その方にあった排泄の支援を行っている。	排泄チェックの記録をし、職員は個々の排泄パターンを把握し誘導している。便秘がちな方には、野菜や果物、水分を多めにする等、自然な形で排泄が可能となるよう心がけている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に気をつけたり、軽い腹部マッサージ・校門マッサージを行っている。又個別に排便状況の記録を付けている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日があり、ゆっくりと入浴を楽しんでいただけるように支援している入浴の可否や洗髪は一人ひとりの希望を聞いている。又体調不良で入浴できない利用者は、清拭を行っている。	月・水・金の週3回の入浴日の設定はあるが、随時、シャワー浴にも対応している。浴槽が大きいので希望があれば2名同時に入浴可能であり、仲のいい方同士ゆっくり入浴を楽しむことができる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動で1日のリズムをつけ安眠につなげているが夜間の状態が不穏な時は、温茶などを飲んでもらいリラックスしていただけるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と相談しながら准看護婦である職員を中心に支援している。薬の飲み忘れ防止に薬袋に日にちを記入し、個人別に管理している。又、個人ファイルに一目でわかるように薬情をはっている。薬の手帳もその都度整理している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や力をいかした役割として食後のお盆ふき・洗濯物たたみ・茶碗ふきや各行事の室内装飾準備など職員と一緒にやっている。		

福岡県 グループホーム ふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日は、利用者に声かけしてできるだけ散歩や庭に出るよう支援している。気候に応じて園庭でお茶やお菓子を食べている。又買い物希望される利用者には、スーパーやジャスコなど個別に出かけている。又、大型車を借りて全員でドライブなどに出かける事もある。</p>	<p>毎週火曜日がホームの買い物日であり、利用者と一緒に買い物にでかけている。スーパーで購入できない物や、行きたい場所の希望があれば個別対応で外出支援している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者はお金の管理が難しい為、家族・本人・管理者と協議の上、家族よりおこづかい程度お預かりし管理者が管理している。買い物を頼んだり、一緒に買い物に行ったりという支援をしている。月に1度所持金残高と購入領収書を請求書に同封し確認していただいている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の依頼があれば、状況により家族へかける支援はするが、現状は難聴の方が多いためかけたり、かかってくる事もあまりない。葉書を書く利用者は誤字がないか職員にみてもらっている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者に難聴の方が多いのでテレビやカセットの音量に気をつけたり、部屋全体のカーテンをピンク色にして明るくなるように工夫している。</p>	<p>皆が集うダイニングキッチンにはお雛様が飾られており、季節を感じることができる。廊下には小さいながらも熱帯魚を観賞することができ、癒される場所もある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間には、みんなが座れるソファを配置し、居室間の廊下にもソファを置き思い思いに過ごしていただけるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の説明で家族には、今まで使い慣れた家具や品物を持ち込んで頂く様に伝えている。</p>	<p>各部屋にはテレビや冷蔵庫、ソファ、仏壇など自宅で使われていた馴染みの物が置かれ、レイアウトも自由にされており、居心地のいい空間が作られている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は、バリアフリーになっていて車椅子もはいるトイレや浴室を設置している。廊下やトイレ・浴室には、手すりを設置している。</p>		